

<第2回福岡アートアワード>アーティスト募集開始します！

福岡市内で目覚ましい活動をおこない、今後も飛躍が期待できるアーティスト（美術作家）を対象に、作品の買い上げをもって贈賞する「福岡アートアワード」。作品を買い上げることでアーティストを支援し、買い上げた作品は、福岡市美術館の所蔵品として展示活用します。これにより、福岡市にアーティストが集まり、質の高い作品の展示や市民がアートに親しむ機会が増え、福岡市が彩りにあふれたアートのまちとなることを目指します。

この度、<第2回福岡アートアワード>の候補者の募集を開始いたします。
広報周知にご協力たまわりますようお願い申し上げます。

賞の種類

- ◆市長賞 1名 ◆優秀賞 2-5名程度

募集内容

■対象アーティスト

- (1)過去1年間（2022年11月から2023年10月）の間に、福岡市内で、展覧会、アートフェアなどへの出品、レジデンス、アート・プロジェクトの実施など、1つ以上の活動をおこなったもの（公開・発表をとまなわない制作活動は含みません。）
- (2)過去5年以内に制作した、福岡市美術館が買い上げ可能な作品を有するもの
※自薦・他薦は問いません。他薦の場合、推薦者に条件はありませんが、必ずアーティスト本人に承諾を得た上でご応募ください。

■募集期間

2023年9月15日(金)から10月31日(火)まで

■応募要項・申請書類

9月1日より福岡アートアワード特設サイト（<https://fukuoka-art-next.jp/faa>）からダウンロードできます。詳細も上記ページに掲載いたします。

選考委員

- 水沢 勉（神奈川県立近代美術館 館長）
植松 由佳（国立国際美術館 学芸課長）
堀川 理沙（ナショナル・ギャラリー・シンガポール、キュレートリアル & コレクションズ ディレクター）



（左から）水沢氏、植松氏、堀川氏

* 各委員の略歴は裏面

発表

受賞者、買上作品は、2024年3月中旬に発表予定です。

【お問い合わせ先】

経済観光文化局美術館学芸課 担当：山木、後藤

TEL：714-6054 FAX：714-6145 e-mail：yamaki@fukuoka-art-museum.jp

<第2回福岡アートアワード> 選考委員

みずさわ つとむ

■水沢 勉 (神奈川県立近代美術館 館長)

1952年横浜市生まれ。1978年慶應義塾大学大学院修士課程修了後、神奈川県立近代美術館学芸員として勤務。2011年より現職。主な企画展に「萬鉄五郎展」(1985)、「エゴン・シーレとウィーンの世紀末」(1986)、「オットー・ディックス」(1987)、「芸術の危機」(1995)、「アントニー・ゴームリー」(1996)、「世界図鑑」(2007)、「エル・アナツイ」(2011)など。サンパウロ・ビエンナーレ 日本コミッショナー(2004)、第3回横浜トリエンナーレ アーティスティック・ディレクター(2008)など。

うえまつ ゆか

■植松 由佳 (国立国際美術館 学芸課長)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団勤務を経て、2008年より国立国際美術館に勤務、2021年より現職。現代美術を中心に国内外で展覧会を企画。近年の主なものに「They Do Not Understand Each Other」(2021、共同企画、香港Tai Kwun Contemporary)、「ヤン・ヴォー・オヴ・ンヤ」(2020)、「国立国際美術館開館40周年記念:トラベラーまだ見ぬ地を踏むために」(2018、共同企画)(いずれも国立国際美術館)など。第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館コミッショナー(2011、作家:東芋)、第13回バンガラデシュ・ビエンナーレ日本参加コミッショナー(2008)を務めた。文化庁アートプラットフォーム事業・日本現代アート委員会副座長。

ほりかわ りさ

■堀川 理沙 (ナショナル・ギャラリー・シンガポール、 キュレトリアル&コレクションズ ディレクター)

1978年米国ミシガン州生まれ。九州大学大学院修士課程修了。専門はアジア近現代美術史。2002~2003年まで中国ロング・マーチ・プロジェクトに関わる。2003-2012年福岡アジア美術館、2012年よりナショナル・ギャラリー・シンガポールに勤務し、2021年より現職。主な企画展に同館での「Between Declarations and Dreams: Art of Southeast Asia since the 19th Century」(2015)、「Reframing Modernism: Painting from Southeast Asia, Europe and Beyond」(2016)、「(Re)Collect: The Making of Our Art Collection」(2018)など。